

学 校 給 食

1 学校給食の基本的な考え方

児童生徒の心身の健全な発達を図るとともに、国民の食生活の改善に寄与するものである。

(1) 栄養のバランスのとれた豊かな学校給食

多様な食品を組み合わせ、栄養のバランスがとれるように工夫された食事をとることにより、成長期にある児童生徒の健康の保持増進、体位の向上に資する。

(2) 望ましい食習慣を形成する学校給食

食事は心や体の健康とのかかわりが大きく、正しい食事の在り方や楽しい食事とはどのような食事であるかなどを児童生徒が理解し、日常の生活に生かすことができる能力や態度の育成に資する。

(3) 人間関係を豊かにする学校給食

みんなと一緒に食事をすることによって、教師と児童生徒、児童生徒間の心の触れ合いの場を作り、好ましい人間関係の育成に資する。

(4) 多様な教育効果のある学校給食

事前の準備、後片付け等の体験的な活動を通して、協力、責任、清潔、きまりを守るなど、共同、協調の精神の体得や自然の恵みや働く人々への感謝の心の育成に資する。

2 学校給食の目標

(1) 日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養う。

(2) 学校生活を豊かにし、明るい社交性を養う。

(3) 食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図る。

(4) 食料の生産、配分及び消費について、正しい理解に導く。

3 学校給食指導の進め方

給食指導は、教育課程では特別活動に位置付けられ、主に給食時間や学級活動において指導する。

また、学校の教育活動全体を通して、望ましい食習慣・豊かな心の育成をめざして行う「食」に関する指導の中心として、諸教育活動と関連づけるとともに、学校栄養職員等と連携して指導を行う。

(1) 給食指導のねらい

小学校においては

正しい食事の在り方を体得させる。

食事を通して好ましい人間関係の育成を図る。

中学校においては

好ましい食習慣の形成を図る。

食事を通して好ましい人間関係の育成を図る。

(2) 給食指導の内容

ア 楽しく会食すること

- ・ 食事のマナーを身に付け、気持ちよく会食をすることができる。
- ・ 様々な人々との会食を通して人間関係を深める。

イ 健康によい食事のとり方

- ・ 食品の種類や働きが分かり、栄養のバランスのとれた食事の仕方が分かる。
- ・ 日常の食事の大切さが分かり、健康によい食事の仕方を身に付ける。

ウ 食事と安全・衛生

- ・ 安全・衛生に留意して食事を取り、食事の準備や後片付けがきちんとできるとともに、安全で衛生的な食品の選び方や食中毒にも目を向け、常に自分の健康に気を付けることができる。
- ・ 協力し合って、安全や衛生に気を付け、給食の準備等ができる。

エ 食事環境の整備

- ・ 食事にふさわしい環境を整え、ゆとりある落ち着いた雰囲気での食事ができる。
- ・ 適切な食器具を利用して、献立にふさわしい盛り付けができる。

オ 食事と文化

- ・ 日本人の伝統的な食生活の根幹である米飯を中心とする和食に関心をもち、食べ方を身に付けることや、地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を深めることができる。
- ・ 食料と生産、流通、消費について理解する。

カ 勤労と感謝

- ・ 自然の恵みと勤労の大切さを知り、感謝の気持ちをもって食事ができる。
- ・ みんなで協力して自主的に責任をもち、活動することができる。

4 給食指導推進上の留意事項

- (1) 学校の教育目標との関連及び全教職員の共通理解を図りながら指導する。
- (2) 児童生徒の発達段階に即して指導するとともに、自主的活動を重視する。
- (3) 児童生徒の実態に即し、個に応じた指導を重視する。

学級担任は、一人一人の食事の量や食事に対する興味・関心の度合い、その日の健康状態等を考慮して指導する。なお、食物アレルギーなど特に個別指導の必要な児童生徒に対しては、保護者、学校医、学校栄養職員、養護教諭等との連携を密にし、協力して指導に当たることが大切である。

- (4) 生きた教材としての献立を通じた指導を重視する。

献立は、児童生徒の発育に必要な栄養素を確保するために、多くの食品が組み合わせられており、その上、食文化や生産、流通等、様々な内容を含んでいる。このことを踏まえて、児童生徒が毎日の食事の中で学習し体験できる重要な生きた教材として、献立を取り扱うことが大切である。

- (5) 多様な体験ができる学習の場にする。

学校給食は「なすことによって学ぶ」ことにその特質があることから、児童生徒が様々な体

験ができる場を工夫することが大切である。

- (6) 望ましい食事環境を工夫し，好ましい人間関係を深める。

ランチルームや食堂を活用した望ましい食事の場づくりを工夫し，様々な人々との交流を深め，グループ給食等の会食形態を取り入れながら食事の楽しい会話ができるように工夫することが大切である。

- (7) 家庭・地域社会との連携を密にする。

望ましい食習慣を形成するには，家庭や地域社会との連携が欠かせないので，学校給食のねらいや活動内容などを給食だよりや学級懇談会の折に取り上げ，家庭等の協力を得たり，食物アレルギーなど個別指導が必要な児童生徒の指導には，保護者との連携を密にしたりすることが大切である。

- (8) 全校的な指導体制を確立して指導を進める。

学校給食を学校経営の柱の一つに位置付け，健康教育全体の中で学級担任をはじめすべての教職員の共通理解に基づいた指導を進める。

さらに，学校栄養職員等の専門性を生かした教科等での特別非常勤講師や担任との連携による給食指導の充実を図ることが大切である。